

【別紙】

(1) 環境との調和

項目	内容
インパクトの種類	環境的側面においてポジティブインパクトを拡大 環境的側面においてネガティブインパクトを緩和
インパクトカテゴリー	「資源効率・安全性」「気候の安定性」「生物種」「生息地」
関連する SDGs	   
関連する SDGs ターゲット	7. 2、7. 3、11. 6、13. 3、15. 1
取組方針・取組内容	▶ZEB 物件の普及・拡大、環境に配慮した建築資材の活用等を通じて、CO₂排出量削減に貢献する。 ▶設計するプロジェクトを通じて、ネイチャーポジティブ達成への貢献、人と自然が共生する空間づくりを推進する。
KPI・目標	▶ZEB 認証(ZEB oriented、ZEB Ready、Nearly ZEB、NET ZEB)を 2025 年に 32 件取得する(以降の目標は改めて設定)。 (実績) 2021 年：15 件、2022 年：23 件、2023 年：28 件 ▶グループ全体の CO₂排出量(Scope1・2)を 2019 年比で 2030 年までに 46.2%削減、2050 年までに 100%削減する。 (実績) 2021 年：▲6.4%、2022 年：▲3.5%、2023 年：+42.3% ▶生物多様性向上プロジェクト(※)を 2025 年に 12 件実施する(以降の目標は改めて設定)。 ※地域の植生・水系や土地利用の歴史、生態系ネットワーク創出などに配慮したプロジェクト (実績)2021 年：12 件、2022 年：14 件、2023 年：12 件

(2) 働き方・生産性改革

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面においてポジティブインパクトを拡大 社会的側面においてネガティブインパクトを緩和
インパクトカテゴリー	「雇用」
関連する SDGs	
関連する SDGs ターゲット	8. 2、8. 5
取組方針・取組内容	▶在宅勤務及び短時間フレックスタイム制度の導入等フレキシブルな働き方を推進し、より良い職場環境を提供する。 ▶高効率化・省人化工法の展開、従来業務の削減、デジタル化等により生産性を高める。

KPI・目標	▶男性の育児休業取得率を各年 100%とする。 (実績)2021 年：9.0%、2022 年：24.1%、2023 年：36.4% ▶施工高管理効率(当社施工管理者の業務効率)を 2021 年比で 2025 年までに 9%向上させる(以降の目標は改めて設定)。 (実績) 2021 年：10.3 万円/人・時間 2022 年：10.4 万円/人・時間(2021 年比+0.9%) 2023 年：2021 年比+2.4% ▶施工高効率(当社協力会社作業員の業務効率)を 2021 年比で 2025 年までに 5%向上させる(以降の目標は改めて設定)。 (実績) 2021 年：1.79 万円/人・時間 2022 年：1.87 万円/人・時間(2021 年比+4.4%) 2023 年：2021 年比+3.2%
--------	--

(3) 着実な生産プロセス

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面においてポジティブインパクトを拡大 経済的側面においてポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリー	「インフラ」「住居」
関連する SDGs	 
関連する SDGs ターゲット	9.1、11.3
取組方針・取組内容	協力会社を含む設計段階からの品質づくり込みや、若手技術系社員を中心とした人材育成等により、高品質で安全な建築を提供する。
KPI・目標	▶重大な品質問題発生件数を各年 0 件維持する。 (実績)2021 年：0 件、2022 年：0 件、2023 年：0 件 ▶お客様満足度調査(竣工時、竣工後 2 年経過時)の「どちらかと言えば満足」以上の回答割合を各年 100%とする。 (実績) 2021 年：竣工時 95%、竣工後 2 年経過時 95% 2022 年：竣工後 98%、竣工後 2 年経過時 99% 2023 年：98.5%

(4) 持続可能な建築・まちづくり

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面においてポジティブインパクトを拡大 環境的側面においてポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリー	「文化と伝統」「資源効率・安全性」
関連する SDGs	 
関連する SDGs ターゲット	11. 4、12. 8
取組方針・取組内容	「品質経営」の徹底により、「日本の建築産業における最高峰」の外部表彰受賞を目指す。
KPI・目標	▶主要外部表彰(BCS 賞、BELCA 賞、日本建築学会賞)の年間受賞件数において、総合建設業界 N01 を維持する。 (実績) BCS 賞：2023 年 1 位(3 件)受賞数累計 1 位(237 件) 日本建設業連合会が主催。良好な建築資産の創出を図り、文化の進展と地球環境保全に寄与することを目的として優秀な建築作品を表彰。 BELCA 賞：2023 年 2 位(2 件)受賞数累計 1 位(80 件) ロングライフビル推進協会(BELCA)が主催。長期にわたる適切な維持保全と、優れた改修を実施した既存の建築物を対象とし、建物のロングライフ部門とベストリフォーム部門の 2 部門からなり、優秀な建築作品を表彰。 日本建築学会賞：2023 年 1 位(13 件)受賞数累計 1 位(303 件) 日本建築学会が主催。論文、作品、技術、業績等の部門があり、日本国内における建築・建設分野で功績をあげた個人・団体に授与される。

以 上